「愛岐トンネル群」秋の特別公開

産業遺産の歴史探訪

廃線路たどり思いはせる

多治見市と愛知県春日井市にまたがる明治の産業遺産「旧国鉄中央線・愛岐トンネル群」で21日、秋の特別公開が始まり、市民や鉄道ファンでにぎわっている。29日まで。（高木俊徳）

日曜映写記

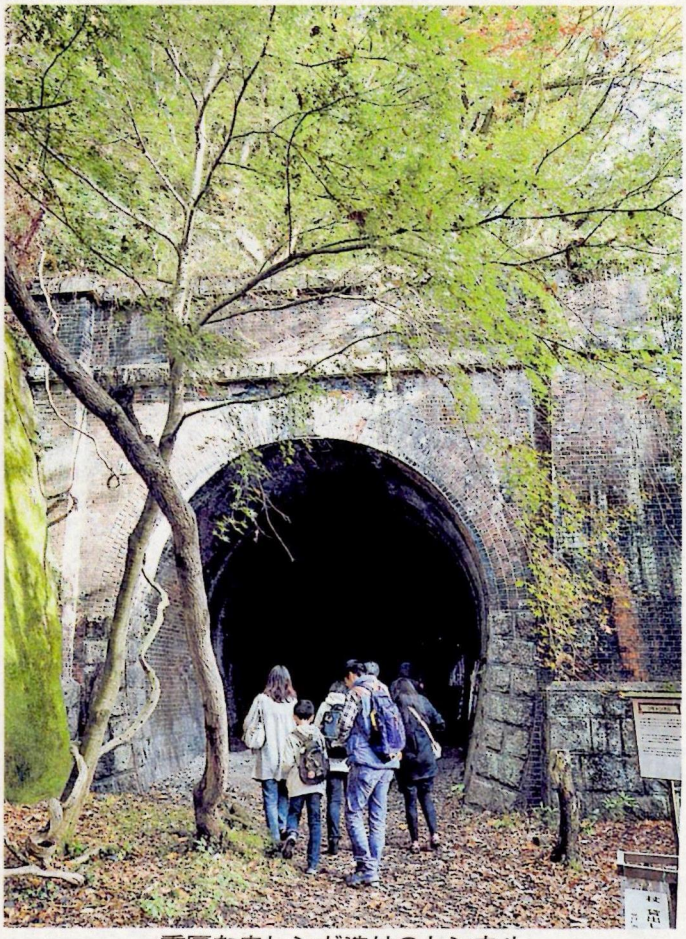
公開されているのは、愛知県側にあるトンネル4カ所、1・7キロ間。愛岐トンネル群は、NPO法人同トンネル群保存再生委員会（春日井市）が保存・整備に取り組み、昨年6月、市民運動「ナショナルトラスト」で、同区間の土地を名古屋市の建設会社から買い取った。

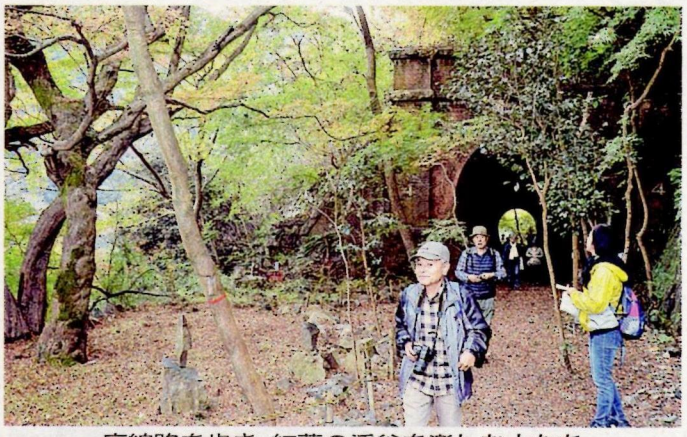
公開初日は、朝から家族連れらが大勢詰め掛け、廃線路を散策し、赤レンガ造りで重厚なトンネルや色づき始めたモミジなど渓谷の紅葉を楽しみ、秋を満喫した。

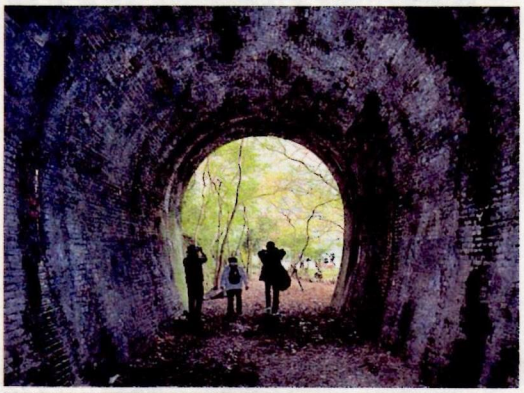
途中の広場では、今春から展示している直径1・75メートルの蒸気機関車の動輪が人気で、自転車ペダルで動輪が回転する「動態保存」の展示法が取られ、子どもたちが一生懸命ペダルをこいだ。

また、オカリナとハーモニカ、尺八の演奏会などもあり、にぎわった。紅葉は今週末ごろが見ごろという。

村上真善事務局長は「貴重な産業遺産で、地域の宝。歴史と自然に親しめる観光資源として、岐阜県側もぜひ整備を進めていきたい」と話している。


重厚な赤レンガ造りのトンネル


廃線路を歩き、紅葉の渓谷を楽しむ人たち


トンネルの内部。出口の向こうに紅葉し始めた木々がのぞく＝いずれも愛知県春日井市

今春から展示され、人気の蒸気機関車の動輪